

# 令和8年度入学試験問題

## 国語

### 注意

1. 合図があるまで表紙をあげないこと。
2. 解答はHBの黒鉛筆もしくはシャープペンシルで解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークすること。
3. 解答用紙に受験番号を正しくマークし、氏名を記入すること。
4. 解答用紙に解答以外のことを書いた場合、その答案は無効とする。
5. 受験票は机に出しておくこと。
6. 【国語】の問題は1番から41番までとなっており、別に記述問題が1問あります。記述問題の解答は、マークシートではなく記述問題用の解答用紙に解答すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

レヴィナスの思想は、『存在の彼方へ』を中心とする後期思想において、倫理と正義という二つの概念の区別をよりはっきりと示すようになる。一方の倫理は、「応答」を骨子とする。これは「私」と「他者」の二者の関係であること、そして「私」にのみ義務が課せられる。これは「顔と顔を合わせる」ような二者間の対面関係であるため、「応答」を向ける「他者」はただ一人のみである。だが、①レヴィナスは「他者」が一人に限られると言いたかつたわけではない。「応答」の意義を説明するためにはこうした二者間の I 的な関係が求められるが、実際問題として、「他者」の「他者」、そのまた「他者」……と、「他者」が複数存在することは当然考慮されている。レヴィナスは、こうした複数の「他者」たち（第三者）と総称されている（を考慮する際には、「倫理」とは別に「正義」という原理が求められると言う。この「正義」とは「公平性」と言い換えてもよい。ここでは、「倫理」においては拒否されていた「知識」や「認識」の必要性が求められ、複数の他者たちの誰に応答するのかを「比較」「計算」する必要すら出てくるとされる。

レヴィナスの後期思想が打ち出したこの「倫理」と「正義」の関係は、キヤロル・ギリガン以降の英語圏の倫理学における「ケアの倫理」という潮流における「ケア」と「正義」の区別と近い構造をもっている。「ケア」が具体的な個人の個性・差異・傷つきやすさに関わるのに対し、「正義」は形式・抽象的な観念としての平等性・自律性に関わっている。

ただし「ケアの倫理」の思想では「ケア」と「正義」が対立関係に置かれがちであるのに対し、レヴィナスにおいては「倫理」と「正義」はむしろ補完的である。②、ある場合には「倫理」を、ある場合には「正義」を行動指針とするという二者択一的な原理が問題になっているのではなく、「他者」関係においては「倫理」が「正義」を支えることが求められているというのである。

このことは、具体例を挙げるならば、正義を象徴する女神とされるテミスが好例となるだろう。テミスは、片手には平等・衡平を象徴する天秤を、もう片手には決断を象徴する剣を手にしており、よく裁判所等にその銅像が掲げられている。ここで重要なのは、このテミスには目隠しをした姿としない姿という二つの異なるヴァージョンがあることだ。目隠ししたほうは相手の「顔」をあえて見ないことで公正な裁きを下す。レヴィナスにおいても、「第三者との関係」において「顔は顔であることをやめる」。だが、これに対し、目隠しをとったテミスは「顔」を直視し、その個性に留意する。個別の事情をあえて無視した「公正」としての「正義」は、あくまで、目隠しをとることによって「顔」を直視する「他者」への「倫理」によって補完される、というわけだ。

こうした倫理と正義の補完的な関係は、社会福祉の制度化や標準化の問題を考える際にも参考になるだろう。社会福祉の営みは、それが「社会」を対象と

している限りにおいて、目の前にいる他者だけを援助の対象とするわけにはいかない。目の前にはいない複数の他者たちをも平等に取り扱い、誰がケアを担当する場合でもできる限り同等のサーヴィスを提供しなければならない。そうした目的をいつそう効率的に達成するには、AIをはじめとするさまざまな最新技術を活用する必要性も出てくるだろう。けれども、

## II

は、必然的に個々の人々の個別的な事情をすべて考慮に入れることはできず、各々の「顔」を見ないことにもつながってしまう……だが、そのことは、たとえばAI等の活用における「倫理的配慮」の限界や欠落であるわけではない。レヴィナスに従えば、「倫理」はAIと「他者」とのあいだにはなく、あくまでそれを利用する「私」と「他者」とのあいだにあるのであって、技術的には匿名性が要請されたとしても、その後で「顔」に「応答」する機会が担保されているかどうか、「倫理」的かどうかを検討する際の鍵となるだろう。

③、レヴィナスが提示する「正義」は「倫理」に補完されるという考えは、このようなジレンマを考えるための解決策ではないものの一つの糸口になるだろう。

さらに、レヴィナスが同じ『存在の彼方へ』という後期著作のなかで提示した「身代わり」という概念は、「福祉の社会化」を考えるための糸口になっているように思われる。

レヴィナスは、一九七四年の同書で、一九六一年の『全体性と無限』の思想をいつそう過激なかたちで発展させている。とりわけこの「身代わり」という概念がそうだ。この「身代わり」とは、『全体性と無限』において対面関係にある「顔」に対する「応答責任」であったものが、いつそう拡張された概念である。『存在の彼方へ』においては、対面関係にない「他者」に対しても応答し責任を負う必要があるとされる。しかも、自分が行なったことに対してだけでなく、他者が行なったことについても、私が「責任」を負わなければならないとされる。しかもこのことが、けっして道徳的な命令ではなく、「私」という「主体」を成立させている根拠となっているのが「身代わり」概念の主旨である。

きわめて奇怪な考え方だが、どうしてこのような極端な考えが出てくるのかは、同書の原書タイトル「存在するとは別の仕方」が示唆しているだろう。ここで批判される「存在する」とは、物理的に実在することではない。そうではなく、自分自身の生存や利害関係を第一の目的として利己的に存在しようとする傾向のことを指している。レヴィナスにとって、伝統的な哲学は多かれ少なかれこうした考えに「私」の存在理由を見出し<sup>い</sup>てきた。他者との共存が問題になるにしても、ホッブズにおけるような社会契約などはあくまで「自己の生存」を大前提とした相互安全保障にすぎない。これに対してレヴィナスは、「私」の存在理由はこうした「自己の生存」にあるのではなく「他者のために」応答し責任を負うこと、自分自身が行なっていないことについても「他者の代わりに「身代わり」として責任を負うことが、「私」の存在理由となっていると述べているのである。

繰り返すが、このような発想は、社会的義務や奉仕を説く道徳論ではなく、あくまで原理的な考察として提示されている。とりわけレヴィナスは、従来の政治哲学や道徳哲学が「私」の「自由」を起点にしてきたのに対して、「責任」や「身代わり」のほうを根源的であると主張することによって、これまでの

自由主義的な哲学の伝統に対して Ⅲ な異議申し立てをしてしているのである。ところで、この観点からすると、むしろ「身代わり」の発想は、「社会福祉」という制度の根幹と重なっていると言えるようにも思われる。

歴史を遡ると、近代における福祉国家の成立は、それ以前の自由主義的な社会体制を支える自由と責任の論理だけでは立ちゆかなくなり、責任を社会全体で分担する必要性が生じたことに関わっている。従来の、自由主義的な考え方<sup>3</sup>においては、自分のしたことに対し責任を負うのは当たり前であった。だが、ここで強調すべきは、一八世紀型の自律した主体の自由および自己責任を重視するような自由主義社会においても、「他者」や「弱者」への援助や他者への責任の問題は無視されていたわけではないということだ。

④

⑤

弱者が弱い立場にいるのはその人の選択の結果であり自己責任であるという型の主張は当然見られた。それにもかかわらずそうした「弱者」の援助は否定されていたわけではない。⑤、こうした社会において援助を肯定するために持ち出される論拠は、あくまで善行や慈愛といった道徳的・宗教的観念にすぎなかった。ここでは、自立した個人の「自由」という原理はあくまで揺らぐことはない。皆「自分のため」に生きるなかで、慈愛や憐れみ<sup>あはれ</sup>を抱くお人好しか利他心を自己の評価の向上へと転換しうる計算高い人物であれば、十分に「他者」に「応答」することも可能だったわけだ（もちろん「応答」しないことも自由だ）。

それに対して、福祉国家体制は「責任」という考えそのものに転倒をもたらした。福祉国家において「弱者」への援助が要請されるのは、自分がなしたことに對する責任というパラダイム<sup>ii</sup>ではない。労働災害や保険などが同時期に制度化されていくことが示すように、災害や事故によって被る被害は、本人の行為に起因するかどうかに関わりなく、その人だけに責任を負わせるのではなく、社会全体でその補償は分担されることになる。各人は、自分のなしたことでなく、他者のなしたことに對してすら、責任と補償を分担することになる。<sup>注4</sup>フランソワ・エヴァルドが描きだしたこのような「責任の社会化」のプロセスは、レヴィナスの言葉を用いれば「私のため」を存在理由とする自己責任型パラダイムから、「他者のため」を原理とする「連帯」への転換と捉えることもできるだろう。

X

すでに述べたように、従来、福祉は「慈愛」といった（多くの場合宗教的な色彩を含む）価値観に基づいて語られてきた。だが、こうした観点は、自由主義的な自律した「強い」個を軸とした観念と一見対立するように見えても、親和的、少なくとも相補的になりうるものである。それに対し、レヴィナスは、自由主義的な制度を支える「私」先行型の議論とは別の仕方、「他者」先行型で「私」のあり方を説明しようとしているわけだ。しかもそれは目の前にいる「他者」に対して「応答」することのみを重視する行動規範ではない。問題になっているのは、そうした個別のケースではなく、「一切の連帯の条件」である。レヴィナスが「身代わり」という概念で提示した、自分が行なったことではないことについても他者の代わりとして責任を負う、という考えは、このような意味で、社会的な存在としての人間存在の存在理由に関わっていると言いうことができるだろう。

(注1) レヴィナス——フランスの哲学者。

(注2) キャロル・ギリガン——アメリカの倫理学者・心理学者。

(注3) ホップズ——イギリスの哲学者。

(注4) フランソワ・エヴァルド——フランスの歴史家、哲学者。

\* 問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 空欄Iを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **1**。

- a 非同一      b 非相関      c 非対称      d 非対照      e 非相乗

問2 空欄①～⑤を補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つずつ選びなさい。ただし、同じものを二度以上選んではならない。解答番号は

- ① — **2**、② — **3**、③ — **4**、④ — **5**、⑤ — **6**。  
a もちろん      b つまり      c いずれにしても      d そもそも      e ただし

問3 傍線部1「倫理」と「正義」の関係とあるが、レヴィナスはこの関係をどのように捉えているのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は7。

a 「倫理」は「顔」を直視し、個別性を大切にすることで、「正義」は「顔」を無視し、一般性を大切にするといい違いが根底にあると捉えている。

b 「応答」を骨子としている「倫理」と平等性に関わっている「正義」は二項対立的な関係ではなく共通点を持ち、互いに弱点をカバーしあっていると捉えている。

c 「倫理」においては必要でない「知識」や「認識」だが、「正義」が複数の「他者」たちに責任を果たす際に用いることで「倫理」を補うものになると捉えている。

d 「倫理」と「正義」は表面的には真逆の行動指針を持っているように見えるが、実はどちらも社会全体のことを考えており、結果的には同じものであると捉えている。

e 複数の「他者」たちのことを考えると、「正義」が取り沙汰されることになるが、その場合も「倫理」が背後にあつてこそ行動を進めることができると捉えている。

問4 空欄Ⅱを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は8。

a どこでも使用できる汎用性・一般性を備えた制度や技術

b 誰にでも妥当する普遍性・標準性を備えた制度や技術

c 誰でも操作できる簡便性・手軽さを備えた制度と技術

d いつでも対応する随時性・柔軟性を備えた制度と技術

e みんなが満足する十全性・完全性を備えた制度と技術



問8 傍線部3「自由主義的な考え方」とあるが、それはどのような考え方なのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は13。

- a 善行や慈愛のもとで「他者」に援助を行うことはあつたものの、「私」という主体の自由の絶対的な価値が置かれているという考え方。
- b 自立した個人の「自由」という原理を掲げること、道徳的・宗教的観点に基づき、自己責任を果たすべきであるという考え方。
- c 「他者」や「弱者」への援助が必要なときは、社会全体で責任を分かちあい、「他者」や「弱者」の支援を行おうという考え方。
- d 「他者」に対して憐れみを抱くお人好し以外は自分を中心に据えているため、自分がしたこと以外には責任を負わないという考え方。
- e 弱い立場にいる「弱者」に「応答」する必要はなく、自らの行為による結果にはすべて自分で責任を負うべきであるという考え方。

問9 傍線部4「福祉国家体制」とあるが、これはどのような体制なのか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は14。

- a 災害や事故が起こったのは社会に責任があるので、責任は社会全体で果たすべきだという考えに基づく体制。
- b 自由主義的な制度ではなく、社会全体で補償を行うべきであると考え、社会主義的な思想を重視する体制。
- c 自由と責任の論理だけでは社会が成り立たなくなり、社会全体で責任を引き受けるという考え方から生まれた体制。
- d 自立した「強い」個人ではなく、他者に依存する「弱い」個人を軸にするべきだという観念の上に成立した体制。
- e 目の前にいる他者と連帯するのではなく、目の前にいない複数の他者との連帯を目指して構築された体制。

問10

X

は 15。

に入る、次のア～エの四つの文を正しく並べたものとして、最も適当なものを、後の a～e のうちから一つ選びなさい。解答番号

ア だが、問題になっているのは、こうした責任の分有という制度を支えている原理的な問題である。  
イ だが、彼自身が自らの「責任」をめぐる議論が「一切の連帯の条件」に関わっていると述べるように、こうした「連帯」という社会的な形態の原理を問題にしていることはまちがいない。

ウ レヴィナスはもちろんこうした社会的連帯の制度化に関する考察を行なっているわけではない。

エ もちろん、こうした福祉国家体制がその後直面したさまざまな課題については考える必要があるだろう。

a ア↓ウ↓イ↓エ

b ウ↓ア↓エ↓イ

c ウ↓イ↓ア↓エ

d エ↓ア↓ウ↓イ

e エ↓ウ↓イ↓ア

問11

本文の内容と一致するものを、次の a～e のうちから一つ選びなさい。解答番号は 16。

a 『存在の彼方へ』を中心とする後期思想において、レヴィナスは英語圏の倫理学における「ケア」と「正義」の区別の構造をそのまま踏襲することによって、「倫理」と「正義」とを関係づけた。

b レヴィナスは『全体性と無限』においての「顔」に対する「応答」を、「身代わり」という新たな概念を導入することで、『存在の彼方へ』において大きく方向転換することになった。

c レヴィナスが提示する「正義」は、「福祉の社会化」を考えるうえでの一つの糸口になる重要なものではあったが、それは伝統的な哲学を考察する際に原理的な問いを発するものでもあった。

d 従来の考え方に根本的な異議申し立てをしたレヴィナスは社会福祉について直接言及したわけではないが、レヴィナスの考えと社会福祉のあいだには密接に交差する論点が複数存在している。

e レヴィナスの提唱した、「私のため」ではなく「他者のため」を原理とする「連帯」への転換は、自立した個人の「自由」を原理とした自由主義的な観点とも親和的なものであった。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

〔注1〕E・パリサーが名づけた「フィルターバブル」と呼ばれる現象は、インターネットにおいて、利用者の思想や行動特性に合わせた情報ばかりが**作動的**に表示される現象を指す。たとえば、ネットサーフィンをしているときに私が目にする広告や、AmazonやFacebookなどを利用する際に表示されるニュースや「おすすめ」などは、過去の私の検索履歴や購買情報からある特定のアルゴリズムを備えたエンジンが行動パターンを学習し、私の好みに近い情報が優先的に表示される仕組みになっている。このようなアルゴリズムの働きによって自分だけの情報宇宙に包まれることを、彼は「フィルターバブル」と呼ぶ。

もうひとつ、よく知られた現象として「エコーチェンバー」と呼ばれる現象がある。これは、インターネット上のSNSなどで自分と同じような意見ばかりが跳ね返ってくる状態になることを、自分の声があらゆる方向から増幅されて返ってくる閉じた反響室(echo chamber)との類比で表現している。この言葉自体はインターネットが普及する以前から存在していたが、とりわけ注目されるようになったのは二〇一六年のアメリカ合衆国大統領選挙であった。ここではドナルド・トランプの問題発言やスキャンダルがどれだけマスメディアに取り上げられても、彼の支持者のあいだではそれらがあまり問題とされず、むしろマスメディアの批判と反比例するかのようにインターネット上のコミュニティにおいてトランプ支持の声が高まっていた。

このように、フィルターバブルとエコーチェンバーは結果として生じる現象は重なり合う部分も多いが、与えられる情報がコンピュータのアルゴリズムによって自動的にフィルターリングされてしまう点に重きが置かれる前者に対して、後者はその言論コミュニティのなかで人々の意見が偏った仕方形成されていく点に重きが置かれている。

しかし、これらは本当に新しい現象といえるのだろうか。というのも、与えられる情報が偏るとい点に関していえば、多かれ少なかれ既存のマスメディアもそれぞれ偏っているともいえるからである。そして、自分に同調してくれる人たちだけのあいだでコミュニティを形成する点も、リアル社会のなかで従来からしばしば行われていたともいえる。したがって、そこにはむしろ人間のある種の普遍的な集団心理が反映されているのであって、とりたてて新たな問題ではないとも考えられる。

だが、やはり大きな違いもある。それが何なのかを、パリサーが挙げるフィルターバブルの特徴をもとに考えてみたい。

まず挙げられる特徴は、一人ひとりが孤立している点である。従来のテレビ番組であれば、たとえそれがかなりマニアックな内容であっても、同じ番組を多くの人々が観ている。それに対して、フィルターバブルにおいて提示される情報は、個人の検索履歴や視聴履歴に基づいてその人向けにパーソナライズされており、自分専用カスタマイズされている。このことは体験の共有を妨げ、われわれを引き裂く

I

として働く。

次に、フィルターバブルが見えないことも大きな違いだ。たとえば、私が新聞や雑誌を手にとるとき、私はそれらのメディアがそれぞれどのような思想的

傾きをもっているのかを多くの場合自覚している。そしてそれは、複数の新聞や雑誌を読み比べてみることで容易にみとることができる。それに対して、フィルターバブルのうちで与えられる情報にそのような傾きがあることを自覚するのは難しい。というのも、フィルターバブルのなかですでに事前に選択された情報のみが与えられており、選択されなかった情報も、選択プロセスも見えなくなっているからである。

さらに、われわれはそのような状況に自分を自分で選択したわけではない。自分がどのような番組を観るか、どのような新聞や雑誌を読むかに関しては、私は自分自身で選択をしている。しかし、インターネットのフィルターを通して与えられる情報は、特定のアルゴリズムによって選ばれるものであり、私自身はその選択に関与していない。そしてそのようなフィルターはあらゆるウェブ上で機能しており、インターネットを使用する限り、われわれがそれから逃れることは難しい。

このようにインターネットに組み込まれているフィルターは、「孤立している」「見えない」「選べない」という点において、従来のマスメディアのフィルターとは異なる特徴をもっている。フィルター越しに世界についての情報を得るといって、色つきのメガネで世界を見る（いわゆる「色メガネで見る」）ことと比べてたくなるが、メガネであればそれをかけていることを自分で認識できるし、メガネをかけるかどうか自分で選択できる。しかし、フィルターバブルではそれができないところに従来のフィルターとの最大の違いがある。

他人の証言を信じる際に、証言を伝える人や伝えるプロセスを評価する

## II

を發揮する必要がある。しかし、フィルターバブルの状態では情報の媒介過程がブラックボックス化されているがゆえに、われわれはその情報が伝えられるプロセスの妥当性を評価することができない。

膨大な情報の選択肢を一から選ぶのではなく、アルゴリズム化されたフィルタリングに一定の選択を委ねることが多くのメリットをもたらすことを認めつつ、情報を選択しないことを選択する自由が残されている必要があると考える。そしてその選択の判断材料とするために、情報の選択アルゴリズムがわれわれに開示されていなければならぬと主張している。この主張を認識論的な観点から言い換えるならば、自分が信じることに對して **II** を十全に發揮するために、それぞれのプラットフォームでどのようなフィルタリングが行われているのが公開されており、そのフィルタリングの仕方を自分で選択できる必要があるということになる。

フィルターバブルの問題が情報の与えられ方の問題だとすれば、エコーチェンバーの問題は情報の検証のされ方の問題とみなすことができる。J・ラツキーはエコーチェンバーの認識的問題として、独立性の欠如と **III** の欠如の二点を挙げている。

独立性の欠如は、ウイトゲンシュタインの挙げた朝刊の比喩をもとに説明される。たとえば、今朝の朝刊に近所で強盗事件が起こったことが載っていたとする。それが本当かどうかを確かめるために同じ朝刊をいくつも買い求めて、そのすべてに同じ事件が載っているのを確認したとしても、それはその事件が起こったことを正当化することにはならない。この比喩の教訓は、何かを「正当化する」ことは、独立した何かに訴えなければ成立しないということである。

エコーチェンバー内の意見は同じ内容のものが多く、元をたどるとしばしば同じ情報源から派生している。したがって、それらの意見をたくさん集めて、それらの内容が同じであることによって自分の意見を正当化できると思うのは、同じ朝刊をいくつも読んでいるのと同じ状態に陥ってしまったのである。

Ⅲ の欠如は、エコーチェンバーに集まっている人たちが特定の指導者的な存在（グル）に対して無批判に従うフォロワーとなってしまうという点が挙げられる。そしてこのような状況で同じ意見が数多くあつたとしても、それはその意見を信じるための根拠とならない。

ラッキーの挙げる二つの問題点に追加して、ここでバイアス（偏り、偏見）の問題も挙げておきたい。エコーチェンバーを形成するバイアスとしてよく挙げられるのは、確認バイアスである。【1】それは、自分の考えが正しいか否かを確かめる際に自分の考えを支持する（＝確認する）証拠ばかりを探してしまい、反証する情報を無視してしまいがちな人間の心理的傾向性を意味している。【2】たとえば、ある人が「血液型と性格には関係がある」と思っていて、相手の血液型がA型だとわかると、A型の性格として知られている几帳面<sup>iii</sup>などの特徴ばかりが目についてしまう。【3】そして、実際には几帳面でないことを示す特徴が多々みられたとしても、それを無視することによって自分の考えが確認されたと誤認してしまう。同様の心理メカニズムは、エコーチェンバーを形成する際にも働く。【4】これは単なる心理的な錯覚の問題にとどまらず、「何を証拠とみなすべきか」に関わる認識論的な問題を含んでいる。【5】

そして、エコーチェンバーは元々もっているバイアスを強化する方向にも働く。たとえば、ある民族に対して特定のバイアスをもっている人はインターネットのフィルタリングによって同じバイアスをもつ人たちの意見に囲まれるようになる。そして、そこでの情報共有や意見交換を通じて、その民族に対する否定的な意見を支持する「証拠」を次々と獲得していく。しかし、その証拠はそのコミュニティのバイアスのもとで選択され、解釈され、加工されたものであり、実際には証拠能力が乏しいものかもしれない。それでも、その人はその「証拠」によって自分の見解が支持されたと考える。この過程を繰り返すことで、その人が元々もっていたバイアスは訂正を免れ、むしろより強化されていくことになる。

フィルターバブルやエコーチェンバーのような状態がインターネットで生じやすいということは、すでに言い尽くされた感がある。しかしこれらの最大の問題は、仮にそのようなネット空間の特徴についての知識をもっていたとしても、いったん自分がそのような閉鎖的な情報環境にはまってしまうと、その環境の内部でのバイアスが無自覚のうちに刷り込まれ、強化されることによって、その人自身の考え方やものの見方が固定化されてしまう点にある。このような状態をここでは「認識バブル」と呼ぶことにしよう。認識バブルのなかでは、外部からの情報を受け入れ、自分の信じていることが間違っていると認めるための認識プロセスが働かなくなり、自分の信念を改訂することがきわめて困難になる。

このような閉鎖的な認識バブルから抜け出すのはなかなか難しい。しかし、少なくともそのバブルに落ち込まないようにする方法はある。それは、知的な徳を身につけておくことである。ここではそのうちのひとつとして「知的に公平な心」を挙げておきたい。これは、すべての観点や意見を偏見なしに公平に取り扱うような人がもつ徳である。たとえば、自分の考えにとって有利な意見や証拠だけが重要だと考え、自分にとって不利な意見や証拠はそれが自分の考

えと合わないという理由だけで軽く見積もったり、自分と他人に異なる基準を適用して判断したりする人は、知的に不公平な人である。  
このような知的公平さの徳は、すべての他の徳と同様に、単に「公平に扱え！」とスローガンを聞かされて身につくものではなく、習慣づけられた実践を通じて少しずつ身についていくものである。

(山田圭一「フェイクニュースを哲学する——何を信じるべきか」による)

(注1) E・パリサー——アメリカの作家・起業家。

(注2) アルゴリズム——コンピュータなどで、演算手続きを指示する規則。

(注3) C・サンステイン——アメリカの法学者。

(注4) J・ラッキー——ノースウエスタン大学(アメリカ)の哲学教授。

(注5) ウィトゲンシュタイン——オーストリア出身の哲学者。

\* 問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 二重傍線部 i、iii のここでの意味として最も適当なものを、後の a～e のうちから一つずつ選びなさい。解答番号は i—17、iii—18。

i 作爲的

a 恣意的な行為により事実が歪曲されているさま

b おもむろに事態が動き始めているさま

c わざと行われたことが明らかで不自然なさま

d どこからか強い力が及ぼされているさま

e 知らないうちに思わぬ方向に導かれているさま

iii 几帳面

a 不正を憎み、道理や道徳に適った振る舞いをする事

b 純粹で、一つのことを一途にやり遂げようとする事

c 自分のやりたいこと以外はないがしろにしている事

d 何事にも真心を込めて、誠実に行おうとすること

e 折り目正しく細かなところまできちんとしている事

問2 傍線部1「これらは本当に新しい現象といえるのだろうか」とあるが、筆者はなぜこのような疑問をもつのか。「これら」の指す内容を明らかにしながら、本文中の語句を用いて、一〇〇字（句読点なども字数に含む）以内で説明せよ。

※解答は記述問題用の解答用紙に記入しなさい（マークシートには記入しないこと）。

問3 傍線部2「フィルターバブルの特徴」とあるが、その説明として適当でないものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **19**。

a いまままでのテレビ番組とは違い、フィルターバブルにおいて提示された情報は、個人向けにカスタマイズされて作成されているため、体験を共有しにくくなっている。

b インターネットのフィルターを通して与えられる情報は、ブラックボックス化しているために、フィルターバブルによって起こっている事態をわかりまえることは難しい。

c インターネットの情報はアルゴリズムにより選択されており、自らの検索履歴や購買情報に基づいてはいるものの、利用者は主体的に選択に与<sub>くみ</sub>しているわけではない。

d インターネットにおいて情報を得る際には、いまままでのマスメディアには存在していなかったフィルターを通すために、偏見や先入観をもって見えてしまうことになる。

e フィルターバブルのなかでは選択されなかった情報を見ることができないだけでなく、選択がどのようなプロセスでなされたのかも見ることができないのが現実である。

問4 空欄Iを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **20**。

- a 反発力      b 神通力      c 遠心力      d 破壊力      e 機動力

問5 二重傍線部ii「それ」の指すものとして最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **21**。

- a フィルターバブルが見えないこと      b 新聞や雑誌を手にとること      c 新聞や雑誌が思想的傾きをもつこと  
d メディア間の思想的傾向を自覚すること      e 複数の新聞や雑誌を読み比べること

問6 空欄Ⅱを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **22**。

- a 生得的理性
- b 個性的理解力
- c 倫理的規範性
- d 常識的判断力
- e 知的自律性

問7 傍線部3「エコーチェンバーの認識的問題」とあるが、この問題について、J・ラッキーはどのように考えているか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **23**。

a ある特定の指導者の存在に従っている人がエコーチェンバー内には多く見られるが、それはその指導者の存在が自らの影響が強まるように導く情報を発信しているからである、と考えている。

b エコーチェンバー内には同じような考えをもった人たちがひしめきあっているが、それはその考えを形成する情報が偏っており、自らを相対化することができないからである、と考えている。

c エコーチェンバー内では自らの意見を吟味することができずに正当化することになってしまいが、それは周囲の人たちから情報を得ることが難しい環境にあるからである、と考えている。

d 同じ朝刊をいくつ読んでも自らの考えを批判することは難しいが、それは何かを正当化するためには人から言われるのではなく、自分の頭で考える力が必要とされるからである、と考えている。

e 客観的な視点から物事を捉えることがエコーチェンバー内では難しいが、それは情報の量が限られているために、とにかく無批判に情報を受け入れてしまうことになるからである、と考えている。

問8 空欄Ⅲを補うのに最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **24**。

- a 的確な観点
- b 絶対的な観点
- c 多様な観点
- d 独創的な観点
- e 柔軟な観点

問9 傍線部4「エコーチェンバーを形成するバイアス」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **25**。

a もともと偏った性格をもっており、柔軟性に欠ける性格の人は、自分とは異なった考えを許容することが難しく、エコーチェンバーを形成してしまうという事。

b エコーチェンバーを形成する要因として、自分の考えを正当化するために自分にとって都合の良い情報ばかりに目が行ってしまうことがあるということ。

c 心理的な弱さが原因で起こってしまうエコーチェンバーは、もともともっているバイアスを訂正することができず、逆に強化することになってしまうという事。

d エコーチェンバー内の様々な意見では自分の意見を正当化することができないのに、エコーチェンバー内で自分の意見を支持する証拠を集めようとするという事。

e 自らの考えを確認するためには何を証拠とみなすべきかを検討することなく、心理的偏りばかりに注目することによりエコーチェンバーが形成されるという事。

問10 次の一文は、本文中の【1】～【5】のどこに入るか。後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **26**。

つまり、実際には自分の意見に対立する証拠を目にしているにもかかわらず、それらを無視したり、過小評価したりしてしまい、自分の意見を支持する証拠ばかりに着目してしまう。

a 【1】      b 【2】      c 【3】      d 【4】      e 【5】

問11 次の①～⑤のうち、筆者の考え方にあてはまるものにはa、あてはまらないものにはbをマークしなさい。解答番号は ①―27、②―28、

③―29、④―30、⑤―31。

① アルゴリズム化されたフィルタリングに一定の選択を委ねることは、自らの頭で考えることを放棄することであり、そこにはどのような利点や価値も存在していない。

② インターネットが普及し、インターネット上のSNSなどで自分と同じような意見ばかりを集めてしまう現象が生じ始めたことで、エコーチェンバーという用語が使われ始めた。

③ われわれはインターネットに組み込まれたフィルターを通して情報を得ているが、フィルターバブル状態では情報の媒介過程が明らかでないので、そのプロセスの適否を判断できない。

④ ネット空間の特徴について認知していたとしても、ものの見方が固定化してしまうこともあるが、習慣づけられた実践によって、知的公平さの徳を少しずつ身につけることができる。

⑤ 現在においてもテレビという媒体は、他の媒体とは異なり同じ番組を多くの世代が見ているため、体験を共有することができ、共同体を統合する機能を果たすことができている。

問1 次の漢字の画数として正しいものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **32**。

「額」

- a 十六画      b 十七画      c 十八画      d 十九画      e 二十画

問2 熟語の表記が三つとも正しいものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **33**。

- a 散在ー浸攻ー逐語  
 b 備忘ー凶刃ー順色  
 c 歛心ー党波ー幸甚  
 d 閑職ー首班ー誤殖  
 e 譲与ー難曲ー好個

問3 次の文の、カタカナ部分の傍線部と同じ漢字を書くものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **34**。  
 ガンシユウの色を浮かべる。

- a ガンを掛ける。  
 b イチガンとなる。  
 c ガンシヨクを失う。  
 d ガンチクに富む。  
 e アイガン動物を飼う。

問4 次の四字熟語の空欄に使われている漢字の組み合わせとして正しいものを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **35**。

無芸大□ — 人□戦術 — 丁々発□ — 喜□満面 — 時□到来

- a 食—海—止—色—期
- b 職—海—至—触—期
- c 食—海—止—色—機
- d 職—介—至—色—機
- e 食—介—止—触—期

問5 傍線部の慣用句、ことわざの使い方が正しくないものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **36**。

- a 手ぐすね引くうちにに経営状態が悪化してしまった。
- b 舌の根も乾かぬうちに、もうウソをついている。
- c 何度交渉しても暖簾に腕押しに終わる。
- d 一日歩き回ったので、綿のように疲れた。
- e 長い物には巻かれよと言うから、黙っておけばよい。

問6 慣用句、ことわざとその意味の組み合わせとして正しくないものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **37**。

- a 縦のものを横にもしない — 面倒くさがって何もしない。
- b 気脈を通ずる — ひそかに連絡を取り、ぐるになる。
- c 蛙の面に水 — かまどんな仕打ちにあっても平気である。
- d 口を酸っぱくする — みんなで同じことを注意する。
- e 鳴りを潜める — 表立った動きを止める。

問7 次の五つの熟語の対義語を1～10のうちから選ぶとき、正しいものがすべて含まれている組み合わせを、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **38**。

「栄転」 「露骨」 「演習」 「無視」 「仮寓」

1 婉曲 2 尊重 3 永住 4 曖昧 5 悠久 6 左遷 7 実戦 8 墮落 9 本番 10 注目

a 1、3、4、5、9

b 1、2、5、6、10

c 3、5、7、8、9

d 2、4、6、8、10

e 1、2、3、6、7

問8 次のカタカナ語の意味を、後のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **39**。

「エポックメイキング（エポックメイキング）」

a 本質的 b 原理的 c 神話的 d 画期的 e 悲劇的

問9 佐藤春夫の作品を、次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **40**。

a 宣言 b 田園の憂鬱 c 和解 d 古都 e 村の家

問10 志賀直哉らと同人誌「白樺」を創刊し、また宮崎県に「新しき村」を建設し、ユートピア運動を実践した作家とは誰か。次のa～eのうちから一つ選びなさい。解答番号は **41**。

a 堀辰雄 b 有島武郎 c 菊池寛 d 伊藤整 e 武者小路実篤